

パフォーマンステストまでの指導の工夫

～主体的に学習に取り組む態度の育成を目指して～

授業力向上推進プロジェクト委員会
瑞浪高等学校 三輪 奈央美

1

目次

1. テーマ設定の理由
2. 研究の目的
3. 取り組み内容
4. 成果と課題

2

1. テーマ設定の理由

1)学校全体として

- ・パフォーマンステスト実施は負担が大きく、実施する授業が少ない
- ・英語に対して苦手意識は強く自信はないが、「話したい」という気持ちはある

2)第1回パフォーマンステスト(話すこと[発表])からみえた課題

- ・準備(原稿作成)にかなり時間がかかった
- ・準備はできたものの、意味がよく分からず発表している生徒がいた

3

1. テーマ設定の理由

- ・パフォーマンステストに至るまでの指導を工夫することで**授業改善**へとつながるのではないかと
- ・パフォーマンステストを実施することで、生徒自身が「何ができるようになったか」を感じることができる
→「できた体験」を増やして、**主体的に英語でコミュニケーションをとる態度の育成**につながるのではないかと

4

2. 研究の目的

【パフォーマンステストに至るまでの指導】

パフォーマンステストに向けて準備をする過程は、**授業での活動の再現を自分で行うことである**。生徒自ら授業での活動などを振り返り、内容面や言語面について学んだことを生かしながら**自分の力で発表を行えるよう**、生徒の状況に応じた段階的な指導を行う。

(「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料p.59)

発表だけでなく準備段階がとても大切

5

2. 研究の目的

授業での言語活動の工夫



- 生徒が自分で活動を再現し、自分の力で発表する
- パフォーマンステスト実施のハードルを下げる

パフォーマンステスト



- 自信をもって英語でコミュニケーションをとる
- 次に目指すべき姿を自分で設定する

6

3. 取り組み内容

題材:『屋久島のエコツアー』

パフォーマンステスト:『行ってみたい世界遺産を紹介しよう』

1)単元の導入でパフォーマンステストのモデルを提示

- ALTがカナダの世界遺産の写真を見せて紹介する

→**Goalを確認**

授業では屋久島について分かったことを英語で紹介する活動

7

3. 取り組み内容

2)各パートごとにアウトプット活動(言語活動)

- ①写真とキーワードを見せて英問に答えさせる
- ②1st リテリング
- ③2nd リテリング
- ④ライティング

8

3. 取り組み内容

2)各パートごとにアウトプット活動(言語活動)

①写真とキーワードを見せて英問に答えさせる

What can you find there?
dense/with/carpet

What inspired Miyazaki Hayao?
mysterious forest

T:What can you find there?
Ss: Dense forest!
文で言えない(つまずき)

9

3. 取り組み内容

2)各パートごとにアウトプット活動(言語活動)

①写真とキーワードを見せて英問に答えさせる

What can you find there?
dense/with/carpet

What inspired Miyazaki Hayao?
mysterious forest

"You can find a dense forest."
1. 全員で言ってみる(確認)
2. ペアで練習(強化)
3. キーワードのみで(挑戦)

10

3. 取り組み内容

2)各パートごとにアウトプット活動(言語活動)

②1st リテリング

キーワードのみで写真について説明してみる(挑戦)

dense/with/carpet

Miyazaki Hayao

mysterious forest

挑戦→つまずき→修正→確認→強化→挑戦
段階的な指導

11

3. 取り組み内容

2)各パートごとにアウトプット活動(言語活動)

③2nd リテリング

- ・次の授業の最初に復習でもう一度リテリングを行う
- ・写真とキーワードありのプリントを生徒に渡しておく
→宿題をやつてこない生徒が家や授業前に練習する

④リテリングの後に必ずライティング

12

3. 取り組み内容

④リテリングの後に必ずライティング(表現の正確さを確認する)

Task 1
Explain about the sites of Yekuhino. Try to use all the keywords!

Task 2 Writing

多岐の山は全体で共有して修正
スペルミスは生徒が自分で修正

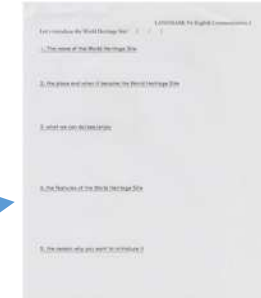
スピーキングでのミスがそのままにならないようにする

13

3. 取り組み内容

3)パフォーマンステスト準備(2時間)

- ・各パートで生徒自身が書いたものを準備
- ・発表に入れるべき項目を提示
- ・生徒は原稿作成とスライド準備



スムーズに原稿を作成することができる生徒が増えた

「〇〇を伝えたいけど、何から書けば良いかわからない」

→「〇〇を伝えるなら、この表現で良いよね」と自分で取り組める姿に

14

実際の発表の発話例

I'll introduce Victoria Falls. It is in South Africa. The name Victoria comes from Victoria princess of England. It's 108m high and 1,700m wide. It became a Natural World Heritage Site in 1989. The reason why I chose Victoria Falls is I can see the lunar rainbow. Have you heard of it? Look at this picture. This is the place where we can enjoy river cruise and bungee jump. Others we can see the water falls like a curtain. Please go there. Any questions?

黄色の部分はリテリングで使用した表現

15

3. 取り組み内容

2)各パートごとにアウトプット活動(言語活動)

③2nd リテリング

- ・次の授業の最初に復習でもう一度リテリングを行う
- ・写真とキーワードありのプリントを生徒に渡しておく
- 宿題をやってこない生徒が家や授業前に練習する

④リテリングの後に必ずライティング

16

3. 取り組み内容

4) パフォーマンステスト後の生徒の振り返り

○できたこと・良かった点

- ・伝えたいことを自分で英語にして伝えることができた
- ・世界遺産について具体的に説明することができた
- ・ALTからの質問を理解できて、答えることができた

17

3. 取り組み内容

4) パフォーマンステスト後の生徒の振り返り

△できなかったこと・反省点

- ・教科書の表現ばかりになってしまって、表現が工夫できなかった
- ・発音、イントネーションを意識した発表ができなかった
- ・アイコンタクトをもっと意識すればよかった
- ・発表中に質問をなげかけたりすれば良かった

次に目指すべき姿を意識

18

4. 成果と課題

1) 成果

- ・授業の延長線上にパフォーマンステストがあり、授業中の言語活動を再現することを意識すれば、生徒にとっても教員にとってもハードルが下がる
- ・授業中の取り組みを形に残しておくことで、生徒自身ができるようになったことを実感することができる
- ・「できた体験」から、自信をもち、次なる目標が出てくる

19

4. 成果と課題

2) 課題

- ・单元ごとで考えるのではなく、单元をまたいでのパフォーマンステストの設定と指導の計画
- ・アウトプット活動のバリエーションを増やす(飽きさせない)
- ・「やりとり」の指導方法の模索

20

参考文献

- ・文部科学省（2021）. 『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料』
- ・浅野雄大・芹澤和彦（2021）. 『中学校・高等学校4技能5領域の英語言語活動アイデア』 明治図書.
- ・上山晋平（2022）. 『英語リテリング&ショート・プレゼンテーション指導ガイドブック』 明治図書.

使用教材

啓林館 LANDMARK Fit English Communication I